

SPARC 事業における履修証明プログラムについて

山梨県立大学

現在山梨県立大学では、特任准教授・比嘉夏子氏の協力の下、「地域に根ざした価値創造」を旨とする社会人履修証明プログラムの構築をすすめている。比嘉氏は「人類学者の眼をインストールする」ことをミッションに掲げるスタートアップ「メッシュワーク」の代表でもあり、これまで数多くの民間企業との協働、社会人向けの参加型イベントを実施してきた。2024 年度・2025 年度は、本プログラムの中核となる社会人向け参加型イベントを実施する計画となっており、本日はその取り組みの進捗状況を中心に紹介する。

2024 年 11 月 2 日～4 日にかけて、「複雑さを捉える——感覚で探る人類学的リサーチとデザイン」と題した 2 泊 3 日の合宿形式の社会人向けイベントを甲府にて実施した(図 1)。本企画はメッシュワークと山梨県立大学、そして合同会社 Poietica (「つくることを通して新たな知を産みだす」ことをミッションに掲げるデザイン系スタートアップ) の 3 組織による共催イベントである。



図 1 複雑さを捉える——感覚で探る人類学的リサーチとデザイン

主催	合同会社メッシュワーク, 合同会社 Poietica
共催	山梨県立大学
イベント日程	11/2-11/4.2024
場所	4U (甲府市丸の内) https://4u-y.com
参加費	60,000 円 (旅費・交通費除く)
参加者数	18 名

このイベントは大まかにいって「観察→表現→講評」の3日のプログラムからなる。

Day1 は文化人類学者のレクチャーを受け、夜間（18 時～）には甲府市のかすがもーる周辺にて各自フィールドワークを実施し、地域を観察する。Day2 には、みずからの観察にもとづいて、デザイン研究者のサポートの下、「みずからの感覚を表現し、他人に伝える」ためのデザインを考案・制作する。Day3 には講評会を行い、制作した作品について人類学者およびデザイナー双方の評価を受ける。



図2 参加者の制作物の一例

図2 は、参加者の制作物の一例である。甲府の公園で取ってきた野草と、果物屋で買ってきたフルーツなどを素材に、甲府の荒川の河川敷を表現している。ムギで表された一見すると清涼な河川の底に、玄米で表現されたミヤイリガイ、すなわち日本住血吸虫症の暗い歴史が横たわっている。制作物の上部には Day1 に記録されたフィールド・ノートが配置されており、みずからの制作のインスピレーションとなった観察が示されている。

本イベントは、60,000 円（宿泊費・交通費別）という比較的高額の参加費にもかかわらず、18 名の意欲的な社会人の参加があり、社会人向けのこうしたイベントに対して一定の手応えを感じることができた。

2025 年度には、「山梨の価値の再発見」をプログラムの核に掲げ、より地域に深く根ざした形のプログラム構成を検討している。北杜市明野の工場跡地に施設を構えアート活動を実践する「ガスボン・メタボリズム」にて活動する芸術家・アーティストらの協力の下、富士吉田市や富士河口湖町など、観光上の課題を抱える地域を対象とするフィールドワー

ク・プログラムを実施する予定である。このような実践をつうじて、「地域に染み付いたイメージによる語り」「観光の文脈で紋切り型に繰り返されてきた価値の語り」を超えて、自らの眼で観察し、自らの手で価値の語りを形成することのできる力を育むようなプログラムを構想している。

こうしたイベントに馴染みの薄い社会人への参加の障壁を下げるため、参加費を 2024 年度よりも低く抑えることを検討しているほか、県内の人びとに向けた割引を実施することも考えている。

これらのイベントをプロトタイプとして中核プログラムを編成し、さらに既存・新設の関連科目（「データマイニングとエスノグラフィ」等）とあわせて、社会人履修証明プログラム（計 60 時間）を構築する予定である。

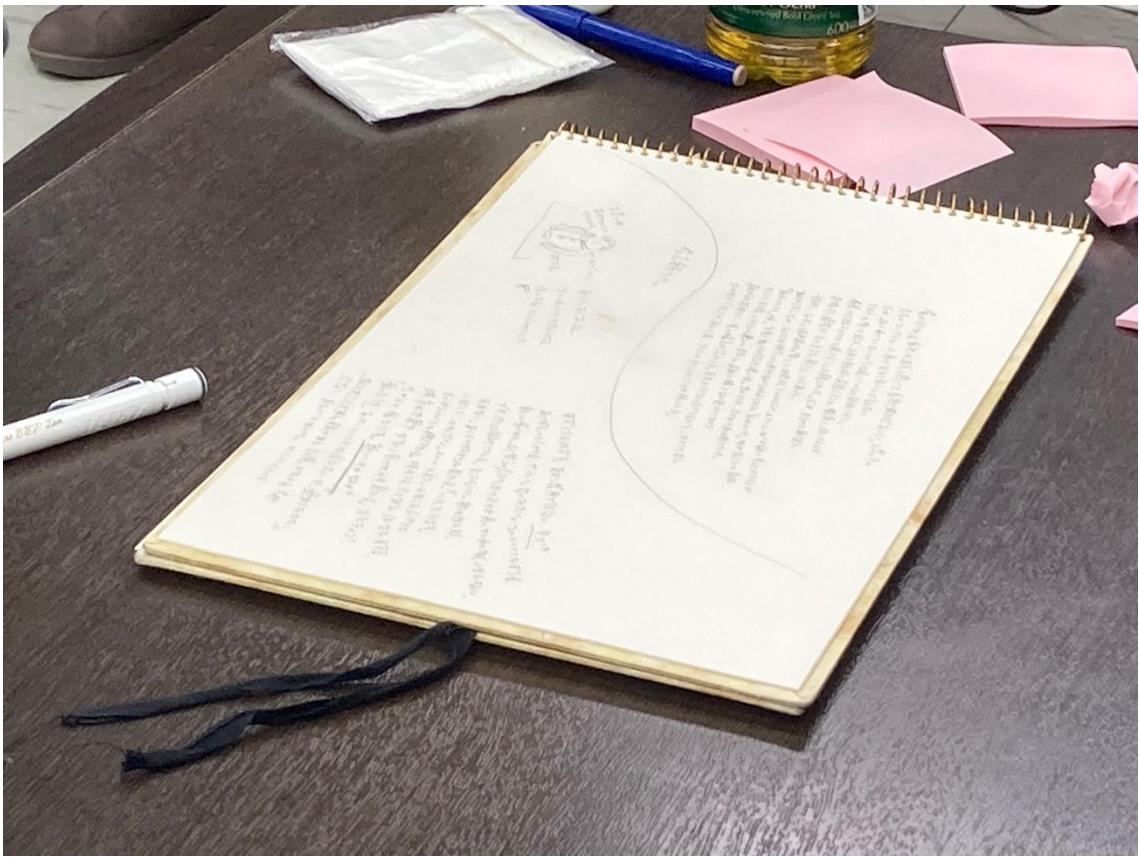
以下に、2024 年のイベントの写真および告知文・タイムテーブル・アンケート結果を添付する。



Day1、オープニングトーク。



Day1、信玄餅を食べる様子をフィールドノートで記録するワーク。



Day1、記録されたフィールドノートの例。



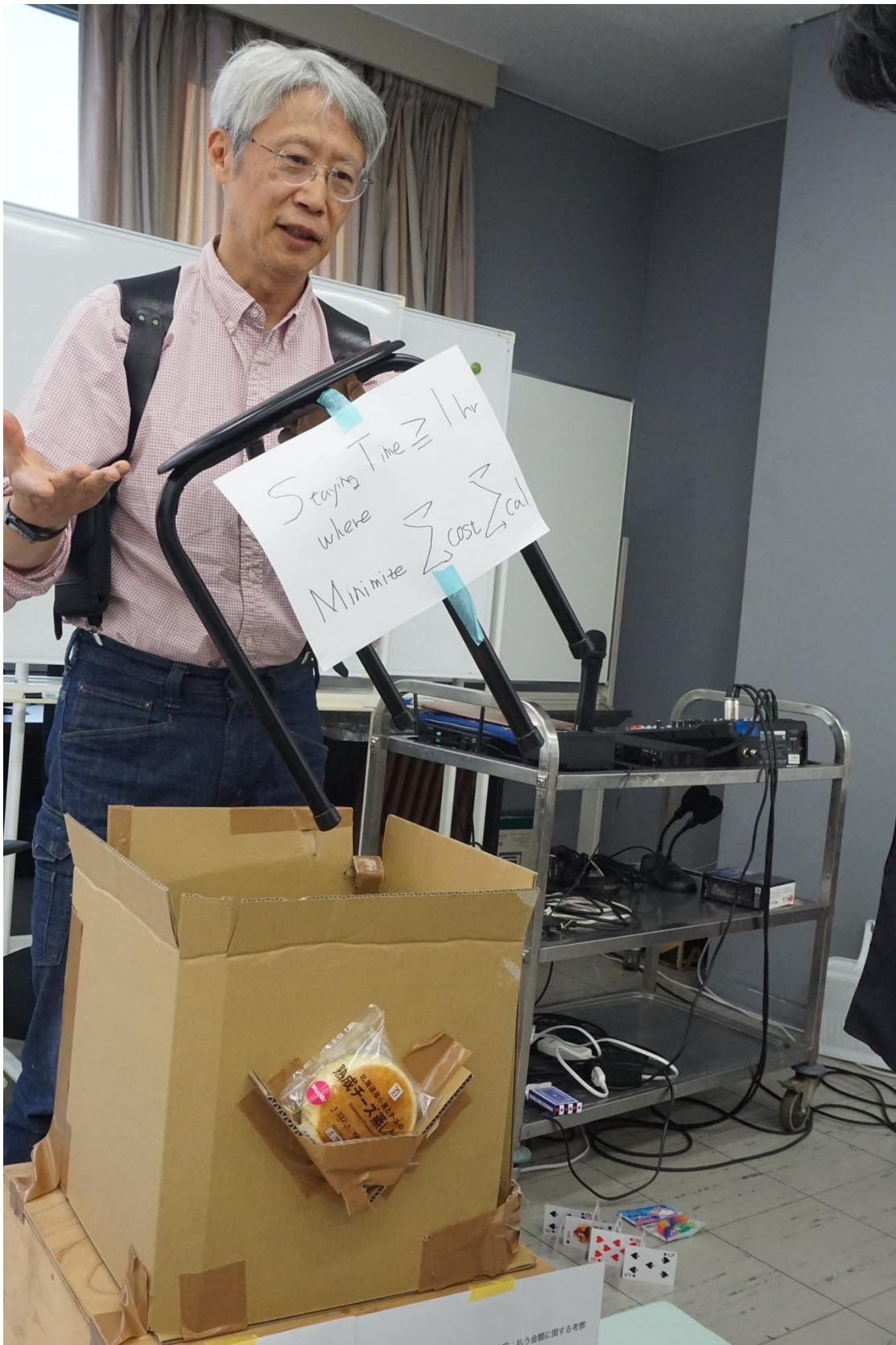
Day2、プロトタイピング（作品制作）の様子。



Day2、プロトタイピング（作品制作）の様子。



Day3、作品発表会の様子。



Day3、作品発表会の様子。



Day3、作品講評の様子。

当日の告知文・タイムテーブル・アンケート結果

イベント概要（告知文）

近年、ビジネスの現場においても、人間や社会をより深く理解するために多くのリサーチが行われ、そこで得られた洞察を企画開発や多様なデザインへと活かす試みがなされています。しかし実際のプロジェクトにおいて、リサーチとデザインとの有機的な関係性を生み出すことは容易ではなく、多くの現場では試行錯誤が続いていることでしょう。

このプログラムは、「人類学者の目をインストールする」ことをミッションとする合同会社メッシュワークと、「持続可能な社会のためのデザインとリサーチ」を行う合同会社 Poietica による主催、そして山梨県立大学との共催で、人類学的リサーチとデザインとを融合する方法論を、3日間の短期集中で学ぶ実験的・実践的プログラムです。ここで学べることは主に以下の2点です。

- ① フィールドワークとプロトタイピングを交互に行き来しながら、インプット→アウトプットのプロセスを学ぶことができる
- ② 人類学的リサーチのなかでも特に「感覚」を重視したフィールドワークを行うことで、人間の経験の複雑さを捉えることができる

参加者は甲府の街を歩き、五感をフルに使ってフィールドワークしながら、そこで得た知見をプロトタイピングへ応用させていく過程を体験します。これまでリサーチやデザインの経験があまりない方も、多様な講師陣が丁寧にサポートしますのでご安心ください。この 3 日間でみなさん個々人の実りある経験となるだけでなく、それを事業にも活かす可能性についても一緒に議論し、展望できればと考えています。

タイムテーブル

Day 1

13:00- チェックイン

13:30-15:00 エスノグラフィとフィールドノートの取り方についてのレクチャー

15:00-17:00 フィールドノートのエクササイズ

18:00- 各自フィールドワーク

Day 2

11:00-12:30 フィールドノートの振り返りと編集

12:30-13:30 お昼休憩

13:30-18:00 プロトタイピング&リサーチワーク

18:00-21:00 共有と交流会

Day 3

9:00-12:00 プロトタイピング&リサーチワーク

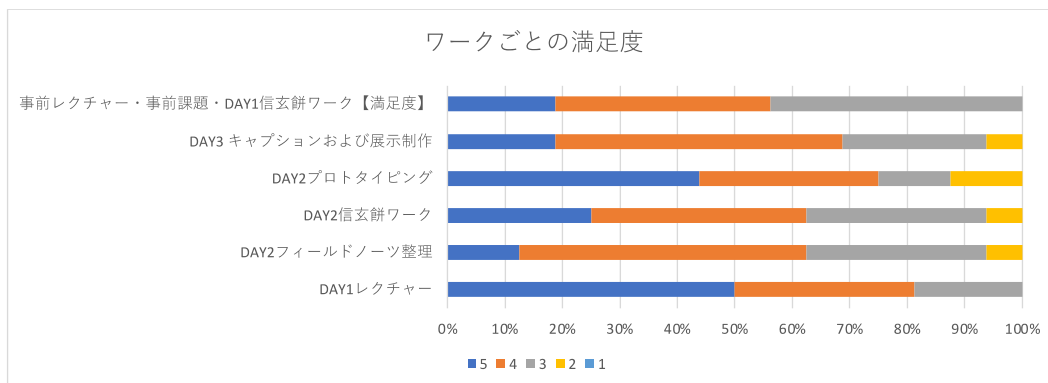
11:00-12:10 お昼休憩

13:00-15:30 プレゼンテーションの準備

15:30-17:00 プレゼンテーション

17:30 ごろ解散

アンケート結果（各ワークの満足度と自由回答）



自由回答欄

甲府というフィールドは個人個人で行く店が異なって、得られるフィールドノートが異なるので面白かったです。

Day2 のプロトタイプ 1.0 が、メタ視点的なものを創ってしまっからの苦悩が大きく、久々におもしろい体験でした。混沌ともっとお友達になりたいです！！本当にありがとうございました。全体通してすばらしい体験でした。

ある種のグラフィックレコーディングのように、プロトタイプ制作の過程をメタ的に観ている人が必要ではないか。運営側がその場で気付いたことを先生的にフィードバックするのは限界がありそう。

WS 前に見ないといけないもの・やらないといけないことがたくさんあると、少し負荷に感じてしまう場合もありそうです。

甲府という町は、東京からの距離感などいい意味で中途半端でよかったと思います。ペットボトルを買ってみんな飲んでいたので、コップ持参で飲み物提供ありでもよかったかなと思います（4 階だったし）。

フィールドノートを見せ合う気づきあうみたいな時間がほぼなかったのも、その時間があってもよかったと思います。

フィールドワークやフィールドノーツ、プロトタイピングの足場掛けを、信玄餅を使って丁寧にやっていただけたのがよかったです。いきなり放たれるとどうしていいかわからなかったと思うので。プロトタイプをドラスティックに変えられなかったのも、視点を変えるヒント等があると嬉しかったです（やるしかないのかもですが…）ポスターセッション形式の発表はよかったです。何回か説明することで自分の中で気づきが得られるし、個別に感想やコメントをいただけたのがよかったです。どうもありがとうございました。

3 日間のプログラムを考えるともう少しフィールドノーツで着目する感覚を選択するまでの時間や必要なノーツの整理、着眼点などについてももう少し時間をとっていただいても良いのかなと感じました。

特に改善したほうが良いことはないです。運営の皆さんありがとうございました。

3 日間ありがとうございました。

フィールドワークからプロトタイプまでというのは初めての体験でワクワクドキドキで

したが、手厚い講師陣とオープンマインドな受講生の皆様に救われて、苦しくも楽しくすごせました。

(個人的には懇親会で解消できてますが、) 今後の学びの継続について、ご示唆があるためになると思いました。

- ・概ね良い意味ですが、自由だなと思いました！私は参加しやすかったです。
- ・運営チーム・参加者間ともに交流をもっとデザインしてもよかったと思いました。最終的にコミュニケーションは当人の意志だが、参加者間でムラがあるように感じた。
- ・受講料は割高かも。一部飲食費は入っていたが、わりと場が参加者に委ねられていたからか、レクチャー代・場所代など合わせてももう少し抑えられそうに思ってしまった。集まっている人がおもしろいから払って良かったかなと思うが、ちょっと当たり外れが大きそう。今回は当たりだった。

開催、ありがとうございます！

特に不満はありませんでした。

必読書のようなものが与えられていてもよかったのかもしれないと、レクチャーを受けながら感じる部分がありました。

もう少し共有知がある状態で、みなさんと会話出来たら、もっと楽しめたかもしれないと、そう思ったシーンがあったからです。

リマインドは少しだけ増やしてもらえると、より参加しやすいと感じました。

当日の朝にメールを遡ったので、前日→当日朝→集合前 1 時間→初日夜→翌日朝→翌日夜→翌々日朝→翌々日夜、、という感じで、集合場所や集合時間、事前にやっておく内容のチェックリストなど、超簡単なインフォが増えると、より安心して参加できる気がします。

(わたしが忘れっぽいだけかもしれないです、、)

学生さん、もっと混ざって欲しかったなあ。

個人的には学割でジェネレーションぐちゃぐちゃになるの好きです笑

プロトタイピングは、一日でも良かったかと思ったが、プログラムの意図を改めて意識すると、2日構成で良いのかも。

講評は的確でとてもヒントを受け取った感覚がありました。(みなさん、さすがだなー) 素早くプロトを作成して、もっとアドバイスや、感想を聞くべきだった。活かさきれてな

いのが反省です。自分に向き合う方に入ってしまい、結論をプロトタイピングする頭になってたかも。。

みながプロト作成に集中しすぎて、地方に居ることや世代を超えた交流など、そんな事ができるゆとりも欲しかったです。（勝手に川に行きましたが、笑）時間の割り振りは見直すこともありそう。

東京に近い地方都市は、興味深いし助かります！とても楽しかったですし、改めての気づきもありました。また参加したくなります。ありがとうございました😊